

事業所における自己評価結果（公表）

公表：平成31年4月23日

事業所名 匝瑳市マザーズホーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制設備	①	利用定員が指導訓練室等スペースの関係で適切である	1	8	・体育館を使用する。	・保護者が一緒に参加し、体を動かすプログラムも行う為、定員20名で使用するには狭いと感じる。
	②	職員の配置数は適切である	6	3	・3月末と比較すると、退職者があった分、やや不足気味なので、募集をかけている。	・2つの教室を同時に開催する日は、人手が足りていないと感じる。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9		・絵カード、スケジュール表を使用する。 ・掲示物等は最低限としている。 ・駐車場からの入口にスロープを設置した。	・教室内で連絡を取る方法が無いので、スピーカーを使うなど、災害時には工夫をする。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9		・建物は老朽化しているが、トイレやエアコン等は新しい物に変えてある。 ・毎日、教室終了後に清掃を行っている。	・建物の立地上、窓に蜘蛛の巣が張りやすいので、窓掃除をこまめに行う。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9		・毎回、活動内容についてスタッフ間で確認を行っている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	1	8		・実施出来ていなかったため、今回の評価結果を踏まえ、改善に努める。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		9	・利用者アンケートを行い意見を汲んでいる。	・実施出来ていなかったため、今回の評価をふまえ、改善に努める。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	7	・実地指導をうけ、保護者にお子さんの出来た事を伝える書面を作成し、毎回保護者に提示している。	・今後、必要に応じて導入を検討する。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		・定期的に小児科医師による発達勉強会の実施。 ・研修会への参加。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	7		・標準化されたアセスメントツールの導入について検討する。 ・医療機関等で受けた発達検査結果を提示して貰い、参考にしたい。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	4	・整理表は3つの視点から作成しているが、「個別支援計画書」は更に細かく情報を分析し、立案している。	・発達支援、家族支援、地域支援について具体的に知るべきところを知りえていない部分があるので、更に知識を深めて行きたい。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9			・時々、共有しきれていないと感じるが、おおむね出来ている。今後も継続して行く。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	9		・新しいアイテムを使用する際は、毎月の会議で話し合いを行っている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		・6週間おきにアイテムを変更し、内容についてもお子さんの年齢や発達段階を考慮している。	

適切な支援の提供	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9			
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9			・振り返りをしっかり行い一人ひとりの気付いた点を話し合い、次回に繋がるようにしている。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			・記録を読み返し、出来た所は伸ばす。苦手な部分は色々検証しながら行い、常に記録に残す。
	⑳	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	1		・基本的には保護者と面談しながら6カ月おきの評価を行っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1		・サービス担当者会議と言う名目ではないが、同じような会議へ参加している。今後も継続して行きたい。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9			
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9			
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	5		・副施設長が医師である為、アドバイスを求める事が出来る。 ・母子通所なので、基本的に保護者から情報を確認出来る。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			・「情報提供書」を作成し、マザーズでの様子を伝える等している。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9			・少し減りつつある様に感じるので、必要に応じて機会を増やす等、検討する。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		9		・通所しているお子さんの殆どが、園との併用利用をしているので、あえて交流を設定する必要は感じない。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	9			
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9			・「ゆっくり伝える」という点においては、まだ課題が山積みだが、今後保護者学級等の充実を図って行く。
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		9		・家族支援プログラムは行っていないが、お子さんとの関わり方についてアドバイスを行い、支援が必要なご家族についての支援も出来る限り行っている。

保護者への説明責任等	③②	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9			
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	7	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にはないが、保護者の求めに応じて面談を組む等の対応を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も必要に応じて支援を継続して行く。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	8		<ul style="list-style-type: none"> 色々な形で開催を試みたが、保護者からの要望に見合った内容での実施には至っていない。保護者学級やちやわの会(親睦会)の充実を目指したい。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9		<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて副施設長(医師)との面談を組むようしている。 面談の他、保護者との連絡ノートを作成し、日常の疑問や悩みにも寄り添うようしている。 	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		<ul style="list-style-type: none"> 毎月、各教室からのお便りを発行、その他年3回の運営法人の広報誌を配布している。 	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	9			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達の為の配慮をしている	9			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業所運営を図っている	3	6	<ul style="list-style-type: none"> 随時見学の受け入れを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の繰り返しが大切なので、行事はあえて行わない。
	非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9		
④②		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9		<ul style="list-style-type: none"> 不審者対応の訓練も含め、年間3回の訓練を実施している。 	
④③		事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7	2		<ul style="list-style-type: none"> 基礎疾患や服薬の確認は行っているが、予防接種は確認していない。母子通所である為、その場で保護者に確認が取れる。
④④		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	6		<ul style="list-style-type: none"> アレルギーについては把握しているが、給食等の食事提供を行わない為、指示書も必要としない。
④⑤		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			
④⑥		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	8	<ul style="list-style-type: none"> 研修に参加したスタッフから内容を伝達して貰う等している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、研修を検討する。
④⑦		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		9		<ul style="list-style-type: none"> いかなる場合も身体拘束は行わないので、計画書への記載もしない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。